

『札幌信用金庫 吉本淳一(よしもと・じゅんいち)会長』

<平成20年5月より当本部監事に就任>



【札幌信用金庫概要】

※平成27年9月末現在

- ・創業: 大正10年12月
- ・出資金: 10億円
- ・預金残高=5,036億円、貸出金残高=3,012億円、自己資本比率=17.59%、自己資本額 399億円
- ・役職員数: 342名
- ・本社所在地: 札幌市中央区南2条西3丁目

【事業内容】

- ・信用金庫(金融業)
- ・9市5町村を営業エリアとする(札幌市、石狩市、江別市、千歳市、恵庭市、北広島市、苫小牧市、小樽市、岩見沢市、当別町、月形町、新篠津村、南幌町、長沼町)
- ・日本格付研究所(JCR)による長期発行体格付「A」

今回の会員企業トップインタビューは、北の大都市札幌市において、地域専門金融機関として地域経済の活性化に貢献している「さっしん」こと札幌信用金庫吉本会長に伺いました。5月には札幌駅前通りの四番街商店街に本店ビルを新築建替し、5月6日にグランドオープンを予定しています。

Q. 吉本会長の入庫の経緯をお聞かせ下さい。

A. 大学では国際金融論のゼミに所属していましたが、学べば学ぶほど、グローバルな視野を持った上で地元へ貢献できる仕事に就きたいとの気持ちが強くなり、札幌信用金庫に就職しました。格好良くいえば、今で言うグローバルのはしりかもしれません。

Q. 貴庫は今年創業95年を迎える道内でも老舗の金融機関ですが、沿革と経営理念について伺います。

A. 大正10年12月、有限責任山鼻信用組合として創業しました。昭和26年12月、信用金庫法施行により札幌信用金庫に改組し、平成28年12月で創業95周年を迎えます。「四方よし」~即ち、「会員・お客様よし」「地域社会よし」「金庫・役職員(家族)よし」「環境よし」の経営を実践し、「アワーズしんきんバンクの実現」を目指すとの方針を掲げ、地域経済の活性化に貢献し、地域の発展・成長に資する各種取り組みを行っています。

Q. 「アワーズしんきんバンクの実現」とは、どのようなイメージですか。

A. 平成20年から掲げた当金庫が実現したいメインテーマで、人口減少、少子高齢化などを背景に、縮み行く地域社会・市場の中で、今後とも、金融機関の競争は一層熾烈化していきますから、当金庫が「勝ち残っていくため」には、一旦お取引いただいたお客様に継続してお取引をいただく仕組みづくりが必要です。お客様から「私の金融機関、マイしんきんバンク」と言われるだけではなく、「我々の金融機関、アワーズしんきんバンク」と言われる信用金庫になるため、お客様を「囲い込む」のではなく、お客様から「囲い込まれる」、「魅力ある」、そして「頼りがいのある」金融機関を実現していきたいと考えています。

Q. そのような魅力ある金庫としていくためには、どのようなことに取り組まれていますか。

A. 色々な取り組みの中の一つは社会貢献です。まず一つ目は、平成15年から開始し今年14回目となる「さっしん札幌クラシック&ポップスConcert」です。

また、「経済講演会」は今年55回目。「経営者大学」は今年32期生を迎え、開学以来900名ほどが卒業、同窓会「昭和会」を設立し幅広い活動を行っています。

さらに、昭和56年に創立60周年を機に設立した(一財)札幌信用金庫社会福祉基金は、社会福祉に係る団体や個人への助成、奨学金など、累計で2,600件を超え、助成金額も1億9千万円ほどとなっています。

Q. 人づくりとして、小樽商大で提供講義をされているのですね。

A. そうです。平成20年から同大学において提供講義をスタートし、今年で9年目になります。「信用金庫の役割と地域経済活性化」をテーマに、前期15講義2単位の授業となっています。平成9年に北海道拓殖銀行の破綻により、道内経済へ大きな影響がでましたが、この苦境を救ったのは、各地の信用金庫の力が大きかったと思っています。小樽商大の学生は金融関係に進む方が多いので、信用金庫の業態などを理解いただき社会に巣立って欲しいと考え創設しました。最大のポイントは「寄付講座」ではなく「提供講義」であること。講義の流れから講師選定まで、当金庫が主導し深く係り、私も「信用金庫のトップマネジメント」と題して、取りまとめの最終講義を担当します。また、昨年からは、同大学で開始された「佐野力海外留学奨励金」は、日本オラクル創業者の大先輩・佐野氏の寄

付により、10年間で600名の学生を海外留学させようというもので、寄付金を当金庫で管理しています。アドバイザーとして本件に係ることが出来たことを、光栄に思っています。

Q. 吉本会長が入庫されてから、今日まで取り巻く環境が大きく変化してきたと思いますが、これまでの印象深い仕事など何点かをお聞かせ下さい。

A. 平成20年6月、理事長に就任した2カ月後に、いわゆるリーマンショックに見舞われました。いきなり難しい舵取りでしたが、累計8年間の資金運用部門の経験が活き、無事切り抜けることが出来ました。

また、平成24年4月からは新しい形の会長制を復活しました。リーマンショック以降の景気低迷などもあり、金融機関全体として厳しい競争に晒される中、理事長は業務執行に専念すべきと判断し、新体制としました。

本店ビル建替と本店ゾーン開発については、お陰様で順調に進み、2月26日にゾーンのプレオープンとして、ファストファッションブランド「FOREVER 21」が開業し、同時に地下街ポールタウンから入った地下2階に当金庫のATMコーナーがオープンしました。新本店ビルは、5月6日にグランドオープンの予定です。当金庫創立95周年の年に、半世紀振りに建替となった新本店ビルが、道内最大の商店街(四番街地区)のランドマークとして、賑わいの街づくりに大きく貢献できるものと確信しています。

この新本店ビルは、今から2年後の平成30年1月に、北海道初の「1兆円を超える信用金庫」の本店・本部ビルとなるもので、相応しい建物になったと考えています。

札幌、北海、小樽の3信用金庫の合併については、先般マスコミリリースの通り、平成30年1月を予定しています。私ども3金庫は、札幌圏や後志管内で古くから営業展開をしており、隣り合う道央圏という一体



新本店ビル完成予想図

の区域の中で、統合された資本・資産を有効活用し、経営の効率化を図り、より一層地域経済の活性化・地方創生に貢献していくべきと決断したものです。合併後は、我々が得意とする地域密着型金融を深化させて、より一層お客様そして地域の信頼を得ていきたいと考えています。

Q. 年明け早々世界的な株安と円高に加え、1月29日には日銀がマイナス金利政策を発表しました。どのように受け止めていますか。

A. 2月16日から我が国ではじめてのマイナス金利政策がスタートしました。マーケットの状況を見ても、大きな混乱があるようです。得てしてこういう時は、心理的にもオーバーシュートするものです。全体のポートフォリオバランスを見ながら、慌てないことが肝要だと思います。今回の政策は、間違いなく金融機関の利鞘にネガティブであり、資金運用も当面厳しい状況が続きますが、こういう時だからこそ「シンプル・イズ・ベスト」を念頭に経営に当たっていかねばならないと思っております。

Q. 貴庫の支店長立候補制度も含めた人材育成等の方針についてお聞かせ下さい。

A. 多様化するニーズに応えられる、活力をもち「考動する」人材の育成を目指しています。昭和49年10月に制定した支店長立候補制度もその一環で、全国の信用金庫業界で初の制度であり、当時マスコミでも大きく報じられました。立候補の条件は、入庫5年以上、主任職以上です。以来、65名の立候補支店長が誕生しています。「出る杭は、打たないで、どんどん伸ばしていく」という方針のもと、人材を積極登用することで、職場が活性化し、若い職員に目標を示すというメリットがあります。また、仕事・業務に男女の区別無しを考えの下、従前より女性登用を積極的に進め、平成12年度北海道労働局長賞(均等推進企業部門)を受賞しました。管理職全体に占める女性の割合は、現在11.2%です。

また、多くの職員の資格取得などに対し、公的資格奨励金制度で個々人の能力開発を支援するとともに、幅広い視野・考え方を身につけてもらうための海外視察研修制度を実施し、平成2年の制定以来、延べ104名の役職員が研修参加しています。

Q. 貴庫の将来展望をお聞かせ下さい。

A. お陰様で新本店ビル・ゾーン開発が完遂しますので、次は、合併成就です。自ら選んだ決断ですので、敢えて、今はその成就しか考えないようにしています。